

課題の 5	春植えタマネギにおける基肥一発肥料の施用効果（新規）
-------	----------------------------

転作田でのタマネギ栽培の拡大に向け、慣行肥料と専用肥料をそれぞれ基肥一発施用とした場合における収量の違いを比較し、今後の栽培普及の資料とする。

1 調査内容

- (1) 栽培環境 露地ほ場
- (2) 供試品種 マルソー（カネコ種苗）：早生
- (3) 耕種概要
 - ①播種日：2月13日 200穴セルトレー
 - ②定植日：4月18日
 - ③栽植様式：畝幅175cm（床幅75cm） 株間15cm 条間15cm
4条植え（中1条空け） 栽植株数 15,238株/10a
 - ④施肥量

区分	肥料名（N-P-K%）	施肥量（成分量 kg/10a）		
		窒素 N	リン酸 P	加里 K
調査区	ベストマッチタマネギ用（17-15-13）	13.3	11.7	10.2
対照区	燐硝安加里 1号 S552（15-15-12）	10.4	10.4	8.3
	有機アグレット 666（6-6-6）	3.1	3.1	3.1
	計	13.5	13.5	11.4

※酸度矯正のため、粒状苦土石灰 M-10 を 95.5kg/10a 散布した。

※N：P：K=10～15：12～18：10～15（成分量 kg/10a）（青森県やさしい栽培の手引より）

- ⑤収穫日：7月22日

2 生育状況

定植後の生育は概ね順調であったが、6月以降にべと病の発生が見られた。（農薬散布状況は表1参照）

表1 薬剤散布状況

散布月	殺菌剤（成分）	殺虫剤（成分）	対象病害虫
5月	1回（マゼブ）	1回（ダイズノ）	べと病、アザミウマ類
6月	1回（アゾキストピソ）	1回（スピトラム）	べと病、アザミウマ類
7月	1回（アゾキストピソ）	1回（ピレスロイド）	べと病、アザミウマ類

3 調査結果

調査区及び対照区において、それぞれ 64 株を抜き取り、収量調査を行った結果を表 2 に示した。全長、全重、調整重、直径、球の高さの全ての項目で、調査区より対照区が大きかった。

表 2 収量調査

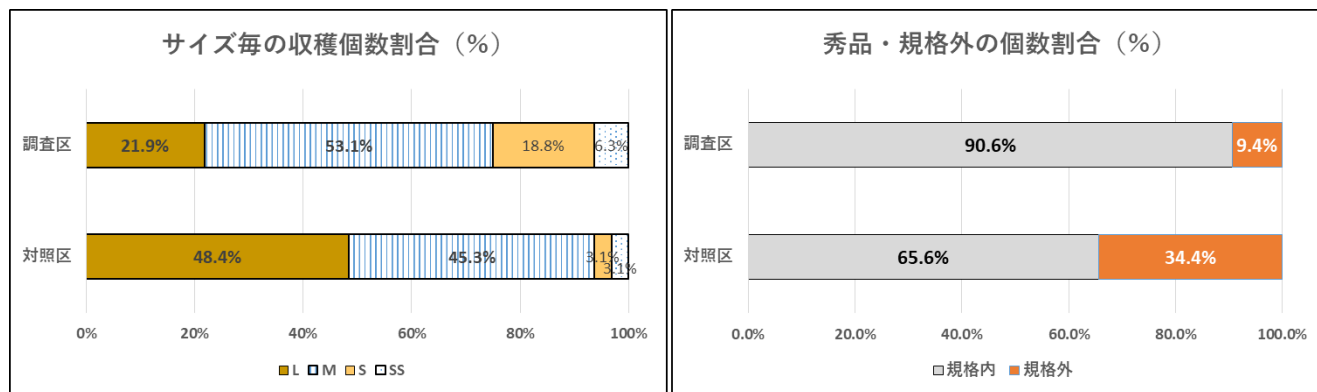
区名	全長 (cm)	重量※1 (g)	調整重 (g)	球の直径 (mm)	球の高さ (mm)	10a 当たり 換算出荷量 (kg/10a)
調査区	66.6	221.5	155.0	68.6	61.0	2,139
対照区	68.6	271.2	196.9	73.8	69.7	1,968

※1 葉や茎がついた状態

収穫したタマネギの調整後におけるサイズ別及び規格別の個数割合を図 1 に示した。サイズ毎の収穫個数割合を見ると、対照区の方が調査区より L サイズの割合が 2 倍以上多く、48.4%となった。M サイズ以下では調査区の方が対照区よりも多かった。

奇形や腐りなどの規格外品については、対照区が 34.4%と、調査区の 9.4%に対し 4 倍弱となった。

図 1 サイズ別及び規格別の個数割合



4 まとめ

今回の調査では、タマネギのサイズは慣行肥料を用いた対照区の方が大きい結果となった。一方で、規格外の割合はタマネギ専用肥料の方が低く、10a 当たりの換算出荷量が多い結果となった。

次年度も、今年度と同一条件で調査を継続する。